



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 9

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

山本町の有線放送

有線放送は広報の他に電話やラジオの機能を備えた通信設備で、山本町では昭和33(1958)年に開通。そのために女性交換手(アナウンサー)を雇用し、お知らせ放送や電話交換を行っていた。

「思い出のページ」

有線放送の職員として昭和40年代に働いた原喜代視さん(68)と近藤クミ子さん(62)は当時を懐かしそうに振り返ってくれました。

有線放送は、県・町・農協からのお知らせや町内・自治会内の周知事項を生放送していました。有線電話は、通信手段が回覧板の時代に画期的なものだったと思います。加入者が受話器を持ち上げると交換台に赤いランプがつくので応対し、つないでほしい回線と番号を聞いて、その回線へジャックを差し込み、相手先を私たちが呼び出していました。ピーク時にはそこから中にランプがつき、真っ赤になってもう大変。何番につなぐのを忘れ、聞き直すなんてこともありましたね(笑)。女性職員は7人で、朝夕2人ずつ交替してシフトが組まれていました。火災などの緊急時の一斉放送や朝5時50分からの生放送に備え、泊まりもありましたよ。寝食を共にした仲間なので、今でも仲良くしています。昭和44年に町内の通話が自動化して呼

び出しの交換をすることがなくなりました。青春の思い出の懐かしい交換台です。

編集 後記



私が防災の特集を取材している間にも、福島県では震度5強の地震が、また全国各地で局地的に猛烈な雨が降るなど、自然災害に見舞われています。また、一昔前の空と現在の空、季節の特徴ある雲が見られなくなってきたように思われ、地球の変化を感じずにはいられません。各地域で結成されつつある自主防災会の皆さんは、日頃からの備えが大切であることを地域の皆さんにどう伝えたらよいか、いろいろと思索していました。今は危機が迫った感じはないでしょうが、いつ起こるか分からない災害に備えて、日頃から準備をしておくことが、いざという時に人を救います。何もない今だからこそ、あなたが動ける時なのです。少しでも災害を減らすことに向けて、みんなで話し合う時がきているように思われました。